

首都圏中央連絡自動車道の開発に係る埋蔵文化財の発掘調査について

茂原市の西側をほぼ南北方向に貫く、首都圏中央連絡自動車道（以下、圏央道と略）は、二〇一三年の開通以来、高速道路網の一部として利便性をもたらしているものと存じます。圏央道は、東京近辺の交通の円滑化のために開発工事が行われており、千葉県内の未開通区間である横芝大栄間の二〇二四年度開通を目指しています。古くは、東金有料道路二期として、東金横芝間が一九九八年に開通して以来、二〇一三年に茂原市内区間を含む、東金木更津間が開通しています。その後、二〇二〇年に、茂原長柄スマートIC（インターチェンジ）が追加で開設され、東京方面へのアクセスが向上し、それを体感された方が多いと存じます。

高速道路の開発事業には、道路用地の確保に続いて大規模土木工事が不可欠です。大規模土木工事は、従来の土

地形状の大規模な造成が必要ですが、造成に伴って土地に刻まれた歴史（ここでは埋蔵文化財としての遺跡を想定しています。）が工事によって破壊され失われてしまうことになり得ます。工事によって、失われる前に、その土地を発掘調査することにより、過去の人々が刻んできた痕跡（遺構・使用され埋没している資料（遺物）を掘り出し、記録化（図面・写真）・回収等によって、過去の人々の生活の復元するための資料を抽出する作業が現場での発掘作業になります。その後、室内作業で出土記録類の整理・図化、出土遺物の洗浄・復元・補修等を行い、簡潔な当時の生活状況を再構築して発掘調査報告書として刊行し、資料が公開されます。資料は後世の調査・研究・見学・活用等に備えて保管・管理されます。現地は、発掘調査終了後に、道

路工事が着工され、調査された部分の遺跡はほぼ消滅します。さて、発掘調査に関する前置きが長くなりましたが、圏央道の発掘調査で、茂原市内では二〇〇五年の国府関遺跡

の調査に始まり、茂原長柄スマートIC開設のために国府関遺跡を二〇一六年に追加調査して完了しています。発掘調査された遺跡は北側から並べると小高前遺跡（桂）、真名宿谷城跡・宿横穴群・真名城跡（真名）、久下横穴群・国府関遺跡・国府関根横穴群（国府関）、芦網横穴群（芦網）、八幡下塚群B区（石神）の九遺跡で調査報告書が刊行されています。

道路部分の遺跡は道路工事で、なくなってしまうことが、記録資料で保存され、開通した道路は、私たちの生活の利便性・質の向上に大いに役立つていくことと思います。

茂原市文化財審議会委員

加藤 正信

問合せ

生涯学習課（9階）

TEL 20) 15559 FAX 20) 16007

文芸コーナー

今を生きる

山本 明美

子供から大人までもやもやドンヨリストレスをみんなが抱えて生きている
コロナ時代三年目

ある日電話の向こうから
「元気にしてる。変わりはない——」と
いつも優しい人の声
「お陰様で元気よ、大丈夫。あなたは——」

空はスッキリまっ青で
一欠片の雲もなく
太陽だけが眩しくて
何だかとても悲しい気分

ある日私は電話をかけた
「お変わりない。仕事は順調なの——」
頑張り屋のその人は
「有り難う。大丈夫元気よ。あなたこそ——」

乾いた風に揺すられて
裸木の高い梢から
泣き声みたいな音がして
何だかとても寂しくなった

体の不調も不都合も
無い人なんて居無い筈
だからみんな痩せ我慢して
少し優しい嘘をつく

◎選評 斎藤正敏

コロナの時代。誰もがみえないストレスを抱えて生きている今日この頃です。この詩のように、お互いが思いあい励ましあって生きていくのも元気の源なのでしょう。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。

●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※詩の原稿送付先（直接選評者へ）〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。
詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしております。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。

